

2020年1月7日

先々週～先週の回顧

カナダ・ドルは、対円でほぼ横ばいになりました。また、カナダ5年国債利回りは低下しました。

カナダの金利は、年末にかけて方向感のない動きになりましたが、先週は米国がイランのソレイマニ司令官を殺害したことで中東情勢の悪化が懸念され、低下圧力が強まりました。カナダ・ドルは、中国が一部産品での輸入関税引き下げを発表したことなどを受け、米中貿易戦争への懸念が後退し対円で上昇したものの、市場で中東情勢の悪化が意識されると上昇幅を縮小しました。

経済指標では、10月のGDP（国内総生産）が発表になっており、軟調な結果になっています。

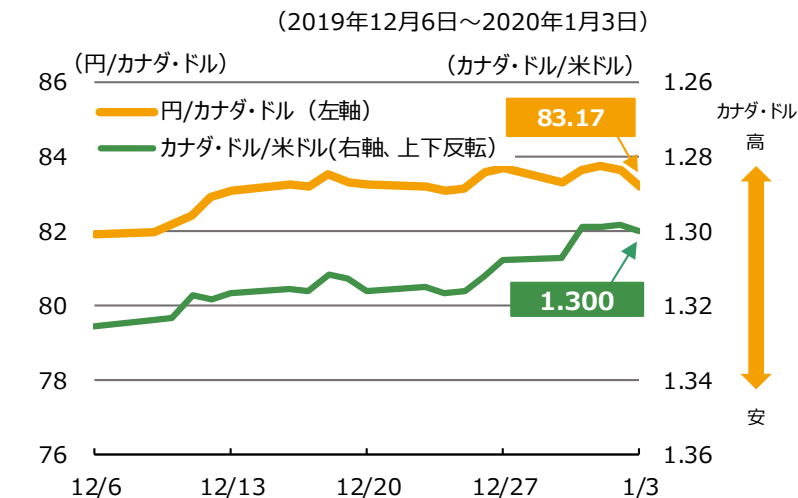
今週の見通し

今週、カナダでは住宅関連指標や雇用統計の発表が予定されています。市場ではいずれも前回よりも堅調な結果になることが予想されています。

米国ではISM（全米供給管理協会）非製造業景況感指数や雇用統計の発表が予定されています。先週発表されたISM製造業景況感指数が軟調な結果であったことから、今後の景気動向をみる上で注目が集まります。

また、中東での紛争激化により世界的な原油供給が混乱するとの懸念から足元では原油価格が上昇しており、今後も底堅く推移すればカナダ・ドルを下支えすることが見込まれます。

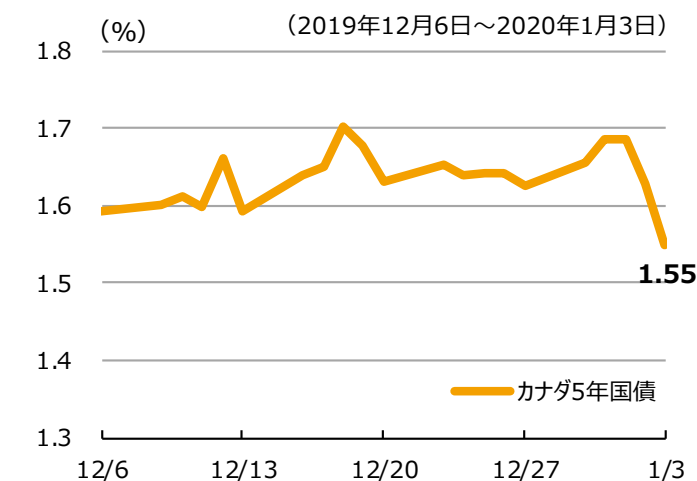
カナダ・ドル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

カナダ 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。